

## 会 議 録

会議名 (付属機関等名)	第5回川西市立学校のあり方審議会		
事務局(担当課)	教育政策課		
開催日時	令和6年8月16日(金) 午後6時00分		
開催場所	川西市役所 4階 庁議室		
出席者	委員	川上 泰彦 委員、柳田 竜一 委員、山本 利映 委員 下村 亜矢子 委員、杉村 浩 委員	
	その他		
	事務局	石田教育長、中西教育推進部長、下内教育推進部理事、岩脇教育推進部副部長、上西教育推進部副部長(教育保育職員・入園所相談担当)、西山教育推進部副部長(教育保育・インクルーシブ推進担当)、富本教育政策課長 他課員2名	
傍聴の可否	可	傍聴者数	3人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	1. 開会 2. 議事 (1)子どもたちの学びを保障し、質の高い教育を実現するための環境について 3. 閉会		
会議結果	別紙審議経過のとおり		

[開会 午後6時00分]

## 1 開会

事務局

それでは、お時間がまいりましたので、令和6年度第5回川西市立学校のあり方審議会を開会いたします。

皆さまにおかれましては、本日はご多忙中お集まりいただき、誠にありがとうございます。

私は本日の進行を務めます、川西市教育委員会教育推進部教育政策課の廣末でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

会議開催に先立ちまして、事務局からの連絡事項をお伝えいたします。ご発言の際は、お手元のマイクを通してご発言いただきますようお願いいたします。

本日の委員の皆さまの出欠につきましては、伊丹委員および平瀬委員が都合によりご欠席となっております。

事務局の出席者につきましては、教育長石田、教育推進部長中西、教育推進部理事下内、ほか6名でございます。

本審議会は、川西市立学校のあり方審議会会議公開運用要綱等に基づきまして公開することとしており、傍聴できることとなっております。本日は傍聴者が来られております。会議録については、各委員のお名前を伏せた形で発言要旨を事務局でまとめ、会長にご確認、ご承認いただき公開となります。よろしくお願いいたします。

それでは、早速ここからの進行は会長のほうにお願いしたいと思います。川上会長、どうぞよろしくお願いいたします。

## 2 議事

(1) 子どもたちの学びを保障し、質の高い教育を実現するための環境について

会長

どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、次第に従いまして議事を進めさせていただきます。

本日の議事は諮問内容「子どもたちの学びを保障し、質の高い教育を実現するための環境について」についてでございます。今回ですが、これまでの論点整理を中心に進めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしく

お願いいたします。お手元の資料に沿って各論点整理を進めていきたいと思いをします。

まず、1点目、学校施設について、お手元の資料2ページ目の①につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

事務局

①第5回川西市立学校のあり方審議会スライド説明  
【川西市の学校施設について】

会長

ありがとうございました。

出てきた論点自体は、目新しいというものではないかと思いをします。これまでの議論の中で出てきたものを改めて整理いただいているということかと思いをします。

それぞれ委員の皆さまのお立場から、このような学校施設が望ましいという部分がございますら意見を頂ければと思いをしますが、いかがでしょうか。

委員

今、ダウンサイジングという中で、どの学校を、どのタイミングで改修するかというのは予算との兼ね合いでも進められているかと思うのですが、昨今、新聞やメディアでも先生方が持ち出しで学校の教育費や設備にお金を出すところもあるということが問題になっています。私の子どもが行っていた小学校では遊具の点検があり、改修の必要度を把握されています。その点検によって改修の対象とならなかった場合において、先生がペンキを買ってきて塗ることがあるということを知りました。とてもありがたいのですが、先生によってはお金を出せない場合もありますし、保護者ができるかというところではありません。

予算の割り振りがあり、難しいとは思いますが、例えば各家庭に助成している給食費などの予算を学校の状況によっては学校の施設の改修に当てることができるなど、地域ごとの課題や状況に応じて予算の使い道を選べたりするのも一つの案であるかと思いをしました。

会長

ありがとうございます。

事務局、何かありますか。

事務局

学校の予算の関係などという部分もあるかと思うのですが、報道でもあ

るような自腹問題ということはやはりよくないと考えています。具体的な状況が分からないので何とも言えないのですが、一つは学校に配分されている予算の自由度を上げていくということが考えられます。学校に配分している予算は、例えば消耗品のようなものを使う場合もあれば、そういったペンキを購入するであるとか備品を購入したりなど、いろいろな使途があります。その中で最初は備品を買おうと思っていたけれども学校運営をする中で修繕に回したほうが良いという場合はそこに回せるようにするなど、自由度を上げていくということです。

このことは、校長と具体的な状況のやり取りをしながら改善をしていけるとお思いますので、そういった形で取り組んでいきたいと考えています。

会長

ありがとうございます。

その他、施設に関連してご意見等がございましたらと思いますが、いかがでしょうか。

副会長

川西市の小中学校の校舎は大体40年以上たっているところがほとんどだということで、やはりどんどん古くなってくると、先ほどのまとめの中でもありましたけれども、マイナスをゼロにする改修というのが多くなっているのではないかと考えています。そこを本当に思い切って変えていくというのはとても大事なことで、当然改修で一番大事なところは、先ほど話があったように安全性だと思うのですが、それを確保した上でいろいろな新しい施策を考えていくということが必要かと思っています。

改修は、やはりかなりの費用がかかるので、できる限り国からの援助をもらえるような、例えば神戸市の場合でも長寿命化改修ということをやうまく使いながら国からの補助を得たりしており、完全に新しくするというのはすごく難しいので、骨組みを残して間取りを変えていったりすることもできると聞いています。そういった観点も踏まえて、改修というのはマイナスをゼロより、プラスになるような改修にしていくべきかと思っています。

会長

ありがとうございます。

やはり箱物を造ると先は長いので、その辺の観点が非常に大事な部分かと思ひながら伺っておりました。

その他、施設に関連してご意見がございましたらと思いますが、いかがでしょうか。

委員

大きな箱物を新しく造るということになると、とてもきれいな校舎など何なり造られると思うのですが、もちろんそれも大事ですけれども、今あるものを維持していくのもとても大変なことだと思います。

今、うちの息子が通っている小学校は掃除の時間がとても減っていて、去年までは毎日でしたが、週に2回か3回になりました。先生方の働き方改革や授業数の関係が理由だと思います。その分、最近はPTAで掃除に行ける方はお手伝いをするという形になっております。

その掃除に行ったPTAの方からの話ですと、トイレ自体がせっかくきれいになったのに、掃除をしていかないとどんどん汚くなって朽ちていくのも早いということで、もったいないという話が出ていました。ですので、施設を新しくするというのももちろんですが、きれいさを維持するというのも大切なのではないかと思います。

会長

ありがとうございます。

大事な観点かと思えます。新しくした後の維持の話にもつながるところかと思って聞かせていただきました。

いかがでしょうか。

委員

学校からの視点、観点です。以前にも私のほうから言わせていただきましたが、今、子どもたちは1人1台のタブレットを持ったり、また教室の中でもICTの機器が随分増えてきているようなところを考えると、教室の広さが十分ではないと思います。子どもたち40人がいる状態ですと、教室内が少し手狭かと感じることがあります。また、1クラス40人だけの学びに限らず、これからは2クラス、3クラスの合同での学びなど、異学年の交流といったところも出てくるかと思えます。

また、これまで以上に主体的、対話的で深い学びの視点から、多様な学習方法にも対応できるよう、ICTの整備も含めまして、例えば教室が今のようなただの閉ざされた空間であるのではなく、廊下と一体化することで開け閉めができる壁にしてオープンな教室にしていくことで、先ほどの多様な学びなどにも、随分対応できるようになっていくと考えております。

あと、最初に事務局からもありましたが、今後は学校という機能だけではなく、文化施設や社会福祉施設との複合化なども考えていかないといけないかと感じております。

会長

ありがとうございます。

学びのサイズ感というのは、小さいサイズから大きなサイズでやるところまでさまざまという意味でいうと、学校施設についてもある種の柔軟性、小さなしつらえから大きなしつらえまでという部分が非常に大事になってくると思います。

今ご意見をいただいた点というのが、論点整理でいうと主に3番目に当たるような話かと思えます。これからの合わせた校舎というのを考えていく必要があるだろうということです。その際に、学校施設のまとめの3点目を大事にするからこそその2点目であると思えます。現状を前提とせず、遅れたものを今風にぎりぎり戻すというのではなく、もう少し先を見据えた改修というようなものができるといいというお話になろうかと思えます。

論点の一つ目として学校施設についてご意見を伺ったところですが、事務局でまとめていただいていた内容を基本として、論点整理を進めていければと思っております。よろしいでしょうか。

(意見なし)

それでは、次の論点です。論点整理ですので一つ一つ、短い時間にはなっていますが進めていければと思えます。望ましい学校規模についてということで2番目の論点整理について、事務局から説明をお願いいたします。

事務局

②第5回川西市立学校のあり方審議会スライド説明  
【望ましい学校規模について】

会長

ありがとうございました。

今、学校規模についての論点整理を示していただきました。説明を聞いていかがだったでしょうか。ご意見等々がございましたらご発言いただければと思えます。いかがですか。

副会長

望ましい学校規模ということで、いろいろ話をここで聞いたのですが、やはり学校現場としては、子どもにとっても教師にとっても、いろいろなことがやりやすい人数があると思います。それが、今回出てきた望ましい学校規模ということだと思います。ただ、これに外れるものが望ましくないというわけではもちろんないとは思いますが、そういうことを考えながら、今後どうしていくかを決めていかないといけないのですが、やはり再編というのはかなり時間がかかるものだと思います。

簡単にこの数から離れているからすぐやりましょうというわけには絶対にはいきません。やはり地域との話し合い、そして実際に再編した時にその学校はどうするのか、どこに置くのか、改築するのか、新しいものを建てるのかということは数年考えないとできないので、そう考えるとやはりこういう規模というある程度の基準があります。今はある程度将来の人数の予測ができるようになってきていますので、まず、話し合いをするきっかけになるということで、望ましい学校規模というのは必要ではないかと考えています。

会長

ありがとうございます。

学校規模についての基準といいますか、一定の数字を決めておくことの必要性についてご意見を頂けたかと思えます。

学校規模感について、その他いかがでしょうか。

委員

今、先ほど年単位で考えていかないとなかなか決まっていけないというお話でしたけれども、継続的に単学級の学年になった場合は、話し合いを持つということなのですが、それを予想として今後こうなるよという予想で、その時点でもう話し合いを持つのか、実際になってから持つのかをきちんと決めておくのは重要かと思えます。今現在起こっていたら、皆さん当事者の方がやはり何か考えていかないといけないという意識があると思います。未来のことで今後単学級になっていくよという予想で話し合いをされるのでしたら、多分時間もかかるでしょうし、資料もしっかり準備してじっくり話し合いの場を設ける必要があると思えました。

会長

ありがとうございます。

検討をどのタイミングでスタートさせていくのがより望ましいかというお話だったかと思うのですが、事務局はこの辺は何か検討されているのでしょうか。

事務局

教育委員会としましては、以前、学校の統廃合の議論をした経緯の中で、1回目の審議会ですし少しご説明をさせていただいたとおり、子どもの数の推計で将来的に単学級になっていくのではないかと、それが見込まれている状況で議論をしたという経緯がございます。

その時に地域の方と議論、ご説明をする中で、実際に単学級が出ていない状況の中でというのはなかなか実感が沸かないのかと思いました。推計に関しても、あくまでも推計ですので、当然若干の振れ幅が出てきます。単学級に関しては35人か36人か、1人の誤差でクラス数が分かれてくるというような状況もございます。そういったご意見も踏まえて、実態として単学級が発生した状態というのが一つの判断の基準になるという議論はこれまでにしております。そこを踏まえた上で、今後判断するような場合は実際に継続して単学級が発生してきているような状況というのが一つの考え方になるのかと考えております。

会長

ありがとうございます。

まずは、実態をベースにということになるかと思えます。

取りまとめる立場を少し離れた話になるのですが、この辺はやや難しいところがありまして、実態からスタートさせるほうが議論には乗りやすいのですが、議論が始まった時の子どもたちが、実際の再編等々の恩恵を受けることなく卒業していくようなタイミングになるケースも往々にして出てきます。

例えば小学校、中学校、どちらでもいいのですが高学年の子どもなどからすると、統合が必要な実態が出てから議論を始めると、統合をしないにかかわらず、自分の子どもには関係ないという話が出やすいです。そういう意味でいうと、早めに統合の議論をスタートすることの意義というのも一方であるのですが、早くするというのは、それだけこのような議論が必要だということを共有しておかないとといけない部分もあり、その辺の難しさが両方あると思っております。

ひとまずは実態を見ながらということになるかと思えますが、タイミングの取り方についてはそのような論点があるところを発言させていただきました。



その他に規模の問題についてご意見ございましたらと思いますが、いかがでしょうか。

委員

今、皆さんがおっしゃられたようなことと同じにはなるのですが、時間をかけないといけない、かつ実際に単学級が出ていないと難しいとなると、単学級の課題というのが何年も続くような状態があって、ゴールが見えにくかったり、あとは先生の業務の問題など、先生が足りないという状況がいつまで続くのかという不安にもつながると思います。ですので、理解は難しいかもしれないですが、前倒しをして地域の方や市民の皆さんに情報共有をしながら、意見も頂きながらというのがいいかと思っております。

会長

ありがとうございます。

前倒しの議論の必要性は大事なポイントかと思えます。

もう一つは、恐らく望ましい規模というところから、大きいほうにせよ小さいほうにせよ、どちらかに振れた場合にきちんとそれぞれに配慮をしていくことが必要だと思います。学校の設置をどうするのかという話にすぐにいってしまい、結論が出るまで学校の教職員や子どもたちがほったらかしというのはもちろんよくないことですので、規模的に大きいほうか小さいほうに振れた場合にも適切な配慮や支援というようなことを考えるものであるとして、学校規模の望ましさとこのを捉えていく必要があると思っております。ぜひこの観点については、少し考慮をいただければと思うところです。

この後、さらに話を進めていく中で、市内に実際にある単学級の学校の現場を見て、現状について共有を図るということも大事であると思っております。なかなか委員の全員というのは難しいのかもしれないのですが、ご都合の合う方で日程調整をして見学の機会が取れればと考えております。事務局にお願いになりますが、委員のほうの日程の調整と学校との調整をぜひ進めていただければと思います。

実際のこういう場での議論とはまた違うこととなりますので、日程や会場等については非公開の形にはなろうかと思えますが、見学を実施して課題意識や現状についての情報を整えていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

少し挟ませていただきましたが、望ましい学校についての論点整理についても今詳しくご説明をいただき、また意見のやり取りをさせていただきます。

ました。お手元の資料でいうと、スライドの10枚目に当たるところが望ましい学校規模についての一つのまとめになるかと思いますが、こちらの論点整理についても一応のご了解いただけますでしょうか。

(意見なし)

先ほど申し上げたとおり、大規模校についても小規模校についても、大規模校を見ておだけとか、小規模校でいきなり統合を含めた設置の話合いというのではなく、どちらについてもまず適切な配慮、支援というものを視野に入れるというところは、ぜひお含みおいていただきたいと思うところです。

それでは、論点の三つ目として、今度は学級の規模というところで、また論点整理、確認をしておきたいと思います。事務局から説明をお願いいたします。

事務局

③第5回川西市立学校のあり方審議会スライド説明  
【望ましい学級規模について】

会長

ありがとうございます。

望ましい学級規模について、ご説明をいただきました。今、これまでの議論の取りまとめとして説明がありましたが、ご意見やお考えがありましたらご発言をいただければと思いますがいかがでしょうか。

先ほど施設の話で出てきたことと、割と似ているところがあります。学習支援としては小さなグループがいい部分もありますし、その他活動の性質によっては大きなグループで動けるほうが望ましく、そういう意味では少し柔軟性を持たせた活動があったほうがいいでしょうということの一つ前提になり、先ほどの柔軟性に対応できるような施設をというところになってこようかと思うのですが、いかがでしょうか。

委員

小学校中学校の校長会でも、現状の小学校35人中学校40人よりも少ないほうが望ましいという意見ではまとまっております。しかし、35人、40人という1クラス当たりの人数は国であったり県のところで定まっているのが大きく、川西市独自で定めて考えていくということは難しいこと

であるということは、当然理解はしております。

ただ、学級規模があまりに小さくなり過ぎると制約もあり、工夫だけでは補えないようなことが出てきて、できないことが増えてくるのではないかと思います。また、その中で多くの意見に触れる機会が少なくなる、またコミュニケーション能力の育成という部分での課題が出てくるのではないかと、校長会としてもたくさん出た意見だったと思います。

会長

ありがとうございます。

いかがでしょうか。学校のサイズ感もそうですし、教室に入った時の学級のサイズ感というところも割とぱっと目について気になる点かと思いますが、ご意見ございましたらご発言をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

副会長

今も話がありましたように、国の基準を変えるというのは絶対われわれがどうこう言っても仕方がないことです。ですが、教員の働き方改革で一番助かるのは学級規模を少なくすることではないかと私は思っているのですが、個人的には今後は国が考えてくれたらいいなと思っています。

われわれでできることは、川西でもやっていると聞いたのですが、教科によって、例えば習熟度別で少人数で分けるなど、クラスの人数が多くても、そういった工夫をして教えるというようなことです。これも教師の負担にはなっていくのですが、そういった取り組みをしながら少人数の良さを生かしていくことができます。あるいは先ほども出ましたように、例えば体育の授業であれば、人数があまり少な過ぎると試合ができなかったりするのですが、他のクラスと合同にというような形でたくさんの人数でやれる時はやるといった柔軟な教育というのは十分できるかと思っています。

ただ、先ほどの学校規模につながってくるのですが、小規模で人数が少なくなってくると、人数を集めてやるということができないのが一番問題だとは感じています。

会長

ありがとうございます。柔軟性をどう発揮するかという、余地の話か聞いておりました。

中学校がこのまま40人のままなのか、35人になってくれるのかは分からないところでもあります。川西市としての学級規模というよりは指導

規模の縮減に向けた取り組みの部分はしっかりと活用や実施をしていただきつつ、ベースとなる学級規模についてはなかなか持続可能性の面でも難しい部分があるということですので、取りまとめいただいた12枚目のスライドというのを、一つ委員会としての論点整理として進めていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(意見なし)

それでは、続けて4番目です。小・中学校の通学距離・通学時間について、論点整理を確認してまいりたいと思います。事務局より説明いただければと思います。

事務局

④第5回川西市立学校のあり方審議会スライド説明  
【小・中学校の通学距離・通学時間について】

会長

ありがとうございます。

今、まとめをしていただきました通学距離・通学時間に関しましてご意見を頂ければと思いますが、いかがでしょうか。

委員

何度も申し上げていることになりましたが、北部の住民からすると、通学距離・通学時間に関して配慮をお願いしたいということになると、基準があるということで、一律にそこで区切られてしまうのが現状です。

今後、過度な負担にならないような配慮というのをどこまでしていただけるのかというのが、それこそ黒川に住んでいる人が東谷地区に来るとか、今の配慮されているところもあるかと思うのですが、それ以外でどの辺りまで配慮していただけるのかというのは気になるころではあります。

会長

ありがとうございます。

今、具体的なお発言があった部分、配慮の部分というのは何か現時点で想定されているものというものはあるものですか。

事務局

通学距離の長い方への配慮につきましては、今の一つの取り組みとしま

して、公共交通機関を利用して通学ができるという選択肢があったり、今年度の2学期から自転車通学の試行実施をしまして、自転車の利用を選択肢として広げていこうと、今、そういった取り組みを進めているところでございます。

委員

ありがとうございます。

以前、通学定期の経済的な負担も大きいというところで、自転車の通学ができないのですかと投げさせてもらった時の回答は「安全面のことがあるので」ということでしたが、いろいろな流れの中で今回、自転車通学が出てきたというところです。

北部の保護者の中には自転車で通わすことが心配なので、やはり従来どおりバスや電車を使って行かせたいという考えもあったりするので、選択肢として自転車もいいですよというのはもちろんありがたいのですが、では、自転車で行かない人は従来どおりというだけではなくて、そこも何か配慮や負担の軽減のようなものがあるとすごくありがたいというのは保護者の意見としてあります。

会長

ありがとうございました。ご意見として事務局が引き取っていただければと思います。

ちょうど前回から今回にかけては夏休み期間ではあったのですが、毎日の暑さを感じていると、あまり前例で通学補助の話をしていると結構危ないところもあるということも思っていたところでした。

ぜひ、配慮を検討するという文言がありますので、前例に従って切っていくというのはあまり新たな配慮の検討ということにはならないかと思えますので、メニューの検討というところを、ぜひしていただければと思ったところでした。ありがとうございました。ありがとうございます。

委員

私の家から学校はすごく近いので、あまり身に染みてそのように感じる場所はないのですが、自転車通学に2学期からなるというご家庭のお母様からのお話で、自転車通学になるのはうれしいのですが、安全面が不安というのが一つと、あと、高低差が激しいので電動自転車でないといけないということでした。しかし電動自転車は結構高いですよ。なので、そんなに買ってあげることができないし、きょうだいがたくさん続けて入学すると厳しいという意見は聞きました。

会長

なるほど、ありがとうございます。

この辺も今、ご発言を事務局からいただいても大丈夫な話ですか。それとも、引き取っていただいてという性質のものでしょうか。

事務局

自転車通学に係る自転車の購入費ですとか、先ほどからご提案をいただいている公共交通機関利用の時の定期代の支援になかなか踏み込めない状況を少しお伝えさせていただきます。どこに住まれるのかというのを決められる時に、もちろん通学距離は要素にも入ってくるのですが、それ以外に敷地の広さですとか、閑静さ、静かさであったり、また、利便性、買い物ができるところが近くにあるのか、医療機関はどうかなど、さまざまな要素を考慮されて住むところを決められる中で、通学だけを取り出してそこに市としては支援をしていくことがなかなか難しいというところで、今、支援に至っていない状況になります。

会長

なかなか難しい状況についてのご説明かと思えます。

交通の話は本当に難しいところがありまして、例えば公共交通が厳しいところでの学校再編の話になった場合などで、個々家庭の通学について補助を出していくのがいいのか、それとも通学バスを走らせたほうがいいのか、市のほうで助成金を出して公共交通路線を新しく引くのがいいのかなどという選択が、もう少し不便な地域だと上がってくるのですが、なかなか大変です。どの要素をどこまで考えるのかというのは、非常に難しいところが出てくる場面になります。

これは恐らく、だからやれないとか、だからやらないという説明ではないと理解をしております、この後、検討をしていく中での難しい要素がこれだけありますという状況のご説明だったかと思えます。具体の通学方法を検討しなければいけない場面がたくさん出てきますと、その状況に応じた検討が恐らく必要になってくるだろうと思えます。これで議論が終わりになるという性質のものではなく、この状況の整理を基に、個別案件についてはこの後さらなる議論になるかと思えます。

今回は一つの論点整理であり、学校のあり方というところを見ていくという整理の部分ですので、具体的に落とし込んでいく時にこういう議論や関心があるのだというところは、こういう場で議論ができたことですので、記録で引き取っていくことで今後の具体の議論になっていった時、ぜひ生かしていただければと思うところです。ありがとうございます。

通学関係でいかがでしょう。ご意見がございましたらと思えますが、よ

ろしいでしょうか。

直前に言ったことを繰り返してもあれなのですが、一つの論点の整理なので、こういうところを今後個別具体的話になった時には引き取って考えていきますという、引き取るべきポイントの整理になります。

スライドの14枚目として整理されています小中学校の通学距離・通学時間についての論点の整理としてはこの形で引き取ってつなげていければと思いますが、よろしいでしょうか。

(意見なし)

それでは、論点の五つ目として、より良い教育環境を実現するための施策についてになります。続けて、事務局よりご説明をお願いいたします。

事務局

⑤第5回川西市立学校のあり方審議会スライド説明

【より良い教育環境（学校規模）を実現するための施策について】

会長

ありがとうございました。

それでは、今、まとめの案を提示いただいた、より良い教育環境を実現するための施策というところにつきまして、ご意見ありましたらご発言いただければと思いますが、いかがでしょうか。

事務局に質問なのですが、①から⑤の順番は何か意図があって付いているものですか。

事務局

特に何か議論を経て①番から⑤番を振ったというわけではないのですが、他の市の状況なども参考にしながら並べています。この議論の中で、例えば順番を入れ替えたほうがいいのか、こういう並び方にしたほうがいいのかというご意見を頂ければ、それも検討をさせていただきたいと思っております。

会長

ありがとうございます。見ていると、既にやっていますという意味では、学校選択制は先に置いてもいいのかなという気がしたり、あとは大きなしつらえが要らないという意味では③の学校間交流や合同学習は大きなしつらえの変更ではなく学校間の工夫でやれるので、先に出していてもいいかと思えます。ハードルの低いものから高いものに向けてなど、もうやっているものから今後やるにしたら結構準備が要るものというような、順序

性をもって入れ替えてみてもいいかと思います。書いている中身自体が変わるわけではなく、やりたい順などではないと思いますので大きな話ではないのですが、そのようなことを思って見ておりました。

そういった意味では取りまとめ側の意見というよりは個人的な意見になるのですが、③番などは割と早い順番で出させていただいて、先ほどの規模の望ましさの話でいった時に、少し手を入れる必要があるとなった時に真っ先に検討できるものとして挙げてみるというのは、一つの考え方かと思った次第です。

ちなみに、もう一点確認なのですが、スライドの10枚目のところで出させていただいた学校規模の話の中で、より良い教育環境を目指し、話し合いを進めますとなっていました。この並びでいうと③以外はいずれも話し合いの対象になるという理解でいいのでしょうか。恐らく学校間交流や合同学習をしますというのは、地域と話し合っただけというよりは、各学校での総意の中でしていただけるものと思います。隣接校区の選択希望制度はもう既にやっているところなので特段話し合いが必要という性質のものではないですが、校区変更をする、小中一貫を導入する、同校種間の統合を検討する、①、④、⑤というのが話し合いをしながらとなった時の選択肢というか、話し合いの対象になっていくというような理解でよろしいですか。

事務局

会長がおっしゃっていただいているような形で、まずは地域の方と保護者の方、子どもたちと対話や話し合いの場を持つ中で、今回ここに示させていただいたようなこともご紹介をしながら、もっともその地域に応じた解決方法、学校規模のより良い教育環境の実現のための方策について話し合いをしていくというイメージになると考えております。

会長

分かりました。ありがとうございます。  
私ばかりがしゃべってしまっているのですが、何かご意見ございましたら頂ければと思いますが、いかがでしょうか。

委員

①の学区変更で、コミュニティの影響のない範囲で調整を行う必要があるとあります。それと④番、⑤番は相反するような気がするのですが、これは④番の小中一貫教育の導入ということは学区が変わってくる可能性があるのでしょうか。

それと⑤番の学校の統合で、2校が一緒になったりすると学区的なものが変わるといえるか、地域がまた変わってくるので、相反するのではないか



とは思ったのですが、どのような感じでしょう。

事務局

ここは状地域によったり、どのような形で検討を進めていくかによって変わってくる部分かと思います。

①番の校区の変更でご意見を頂いたと思っているのは、例えばコミュニティの圏域を半分に割るとか、そういった変更はやはり厳しいのではないかという意見を頂いたと認識しております。

例えば川西の場合ですと、一つのコミュニティの中に小学校区が二つあるようなケースもあります。これも地域の方がどのように感じられるのかということにもなるかと思いますが、二つの小学校区が一つの小学校になった場合に、例えば旧の小学校区のそれぞれ独立した二つコミュニティがあるなど、いろいろな姿があるというのは、それぞれの地域が、どのような姿の学校にしていくのかを話し合う中で丁寧に議論を進めていくことになるかと思います。委員の方がおっしゃっていたのは、一つのを分けるというのは厳しいのではないかというご意見だったかとわれわれとしては理解しているところです。

会長

ありがとうございます。その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。並べ方をどうするのかというのは、重要ではない話ではあるのですが、内容についてはここに挙げていただいた5点を柱に、より良い教育環境を実現のための施策というところで論点整理を進めていただくと、ご了解いただけますでしょうか。

(意見なし)

では、これで進めていただければと思います。よろしく申し上げます。それから、論点の六つ目、特色のある教育についてというところで、事務局よりご説明をお願いいたします。

事務局

⑥第5回川西市立学校のあり方審議会スライド説明  
【特色のある教育について】

会長

ありがとうございました。

特色のある教育として、小中一貫教育とオンライン教育の2点について論点のまとめ整理を提示していただいておりますが、ご意見ございましたらご発言いただければと思いますが、いかがでしょうか。

副会長

義務教育学校の校長を5年間したという経験から、少しまた話をさせてもらいます。小中一貫教育の良さというのは先ほど18ページで書かれていたものだと思っていますし、私も実際にそこで学校の経営をしている中ですごくいいと感じました。

もちろん、持っていき方や、何をここで9年間やるかを教師はもちろん子どもたちにもきちんと丁寧な説明をしながら進めていくことがすごく大事なことだと思うのですが、子どもたちの様子を見ていても、今まで一般校にいた時の教育と比べても、やはり一貫教育は良かったと私は感じています。

あと、蛇足になるのですが、5年の間に全国のいろいろな義務教育学校の視察をさせてもらいました。少し調べてみたら、全国で義務教育学校という名前が付いているのが恐らく200ほどあると思うのですが、実際に小規模になっていった学校を今後どうしていくかということから義務教育学校になったというのが7割ぐらいあるのではないかと考えています。

そういった学校に行った時も、子どもたちが少なくなり、自分たちの町の学校がなくなってしまうのではないかという不安を、二つの小学校と一つの中学校で一つの学校にしていくぞということで地域の方にも理解を得て、みんなで考えていっているという学校もたくさん見てきましたので、そういった面でも一つの考え方ではあるとは思っています。

会長

ありがとうございます。

その他いかがでしょうか。それぞれについてご発言をいただければと思います。

委員

今、おっしゃられたのがまさに少し気になっていた点で、例えば小規模校の解決策というところとあれですが、そのことプラス小中一貫の良さというところを生かして川西でされようとしているのか、もしくは規模感が大きくても小中一貫校の良さというところを生かしていかれようとしているのか、何かその辺の展望のようなものはおありでしょうか。

事務局

小中一貫校でも義務教育学校でも、規模が大きくなり過ぎるとそのメリットが大きく生かせず、国の基準でも学級数というのが定められておりますので、それを超えるような規模になるとデメリットも今度は出てくるかと思えます。

先ほどおっしゃっていただいたように小規模校を一つに収めていくという形が、今のところは一番規模感としてもメリットが生かせる事例が多いのかなと認識をしております。

教育長

小中が連携して教育するというのは随分前から川西も取り組んでいますので、小中連携教育は進んでいます。 ご存じのことかもしれませんが、例えば小学生の中学校の部活体験や中学校訪問でありますとか、それから中学校の教員が小学校の高学年に行って授業をしたりなど、そのようなことの連携教育を進めてきたところです。

先ほども担当が言いましたように、一貫教育はさらにそれを進めて教育課程自体が一緒にできる、学び直しができたり、同じように重複しているところを一つにまとめて学べたりなどのメリットはあるのですが、一貫教育をした時に、例えば中学校の教員が小学校に教えに行く時に隣接していないと移動が困難であるなど、その他いろいろな難しさもあり、一貫教育のメリットは考えつつも一定の施設としての制約を外していかないと、なかなか進めていけないだろうとは思っているところです。

委員

小中一貫校は保護者としても大変興味深いところだと思うのですが、一方で小規模の小学校と中学校がくっつくことで、8ページにありましたような小規模校の懸念点というところと通ずる懸念点が出てくるかと思えます。

例えば小学校でトラブルを抱えている子が中学校で環境がなかなか変えられずにそのまま上がってしまうなどもあるかと思えます。

私の子どもの友達でも、例えば小学校では学校になかなか行けていなかった子が、中学校で環境が変わって結構楽しく通えるようになった様子も見ているので、その辺は一定懸念点としてあるのかと思えます。

ただ、同時に学びの多様化学校というのが検討されるということなので、あまり懸念ばかりあってもなかなか進まない部分かとは思っているのですが、一つの視点として意見をさせていただきました。

会長

ありがとうございます。

その他、特色のある教育についていかがでしょうか。

委員

小中一貫教育というのは、保護者としてもとても魅力がありますが、不安という思いもあります。小学校や中学校で学ぶ内容を先行して学ぶなどというのが書いてありますけれども、やはり高学年になるとなかなかついていけない子が、また中学の学びを先行していくと、どんどんついていけなくなってしまうのではないかなどの懸念もあります。ですので、小中一貫校だからどんどん先に行くというのももちろんいいと思うのですが、そういった取りこぼしがないようにしていただきたいという意見があります。

あと、先生たちの負担もおそらく結構すごいと思います。学校は転勤や異動があると思うのですが、そうすると小中一貫校に来て、また転勤、異動で普通の小中学校に行ってなどという入れ替わりで、小中一貫校のメリットがなかなか先生たちに定着せず、うまく回るのかどうなのかと思います。実際に、もし小中一貫になりましたら、そのような細かいところも見ていただいて、いろいろな学校が全国でもう200ほどあるということを知ったので、視察などもきちんとしていただいて、うまく組み立ててほしいと思いました。

会長

よろしいですか、お願いします。

教育長

今、ご質問のあったことで、少し説明が足りていなかった部分もありますが、教育課程を柔軟に編成できるというのは、逆に言うと学び直しもできます。よって、中学2年生になって小学校6年生のところに戻ったりもできます。今言われていました個人によって得意不得意や興味があったりなかったりするところがあると思うのですが、教育課程を割と柔軟に組めるということで、興味がある子はその教科については先に行ったり、例えば中学校の教員が小学校に教えに行くことも可能になるので、専門的な学びもできると考えているところです。

もちろん、注意していかなければならないこともたくさんあるとは思っています。一つは、あまりあってはいけないことなのですが、やはり小学校文化と中学校文化のようなものがあって、生徒指導上の約束事なども微妙に違ったりしていると思います。それを中学校の教員が、小学校からずっと上がっていく成長過程を見ることによって見直したりなど、文化を融合させるなどという点でいうと、教員も視野が広がると思います。だから

小中一貫校で体験したことが小学校に異動になった時にそれがまた生きてくるといふ報告も聞いています。

基本的に小規模校でというのは、今まで横のつながりで、同じ学年で集団を形成できていたものがなかなか形成できないような状況になった時に、縦で今度は集団をつくっていこうというのが小中一貫の一つの考え方かと考えています。

会長                    ありがとうございます。

委員                    他の委員の方からの話の中で、このような回答かというのを今、教育長が全部言っていたかと思うのですが、小規模の小学校と小規模の中学校がくっついて、例えば単学級で9年間やるというのは、やはりしんどいだろうとは思っています。

神戸のほうにも昨年度からできた八多学園という義務教育学校があるのですが、そこはもう単学級です。もともと神戸の北区の農村部のほうにある学校で、単学級の八多小学校と単学級の八多中学校を同じ校舎の中で一つにして八多学園という名前に変えました。メリットとしては先生方が前期課程も後期課程も行けるといふことで、今まで単学級だったので先生が足りなかったのを、小学校の音楽の授業も中学校の音楽の先生が行けたりします。ただ、やはり子どもたちにとっては若干上手に育てていかないと人間関係がずっとそのままいってしまうというところがあります。

だから、可能であれば複数学級の義務教育学校、小中一貫校のほうがやはり望ましいと私も感じます。先生方の体験というのは、今、教育長が言われたとおり、そこで3年間なり4年間ただけでも、ある程度今まで分からなかった小学校の先生が中学校のことを知る、中学校の先生が小学校のことを知るというのはすごく大きかったのではないのでしょうか。その先生のこれからの将来につながる経験としてもすごく大きなものがあったのではないかとは思っています。

会長                    ありがとうございます。

委員                    義務教育学校というのは具体的にどんな運営なのかというところまでは

つきり全て分かっているというわけではなく、第2回目辺りでもこの件については検討させていただいたのですが、やはり小規模校を少ない教員で運営していく時の負担やデメリットという部分を、校種は違いますが、お互いに連携し合いながら一緒に補って運営していくことによって随分軽減できるかと思えます。

また、その教師の負担が軽減されることによって、子どもにより細かな形で関わっていくことができるようになっていくとは感じてはおります。

会長

ありがとうございます。

今、意見交換が小中一貫のほうに割と寄っていた感じもありますが、オンラインを含めて何か追加でご意見ございましたらと思いますが、いかがでしょうか。

委員

以前も意見が出たかもしれないのですが、オンライン教育の②の部分で、欠席児童や校内サポートルームの児童の出席になったり、授業を聞けたりというところは非常にメリットだと思います。しかし、なかなかコロナ禍でオンラインが入ったけれどもそれが継続できなかつたというのが、多分先生のご負担感というのがあったかと思えます。一方で働き方改革など、今まで出ていたような業務負担がある中で、ここが果たして、その課題を乗り越えて実施できるのかというのは見えてこないのですが、何かそこで解決策というか、どのような工夫や配慮を検討されているのかをお聞きできればと思います。

事務局

オンラインの現状ですが、今、委員がおっしゃったようにコロナ禍の時はすぐにタブレットを1人ずつ1台配布させていただきましたが、最初は学校の先生方もどのようにオンライン授業をしたらいいかというのが、なかなかすぐには分からず、戸惑いもありました。しかし、ある程度コロナ禍の間にオンラインのつなぎ方や授業のやり方などの工夫も各学校のほうでしていただいているので、現状は、もしそのようなオンラインの希望があれば、子どもと家庭と学校をつないできちんと授業が受けられるような環境には整ってきております。

ある学校では、先生の授業をずっと配信している状態で、自由に子どもたちがその授業に入れるような状況にしている学校もあります。ですから、IDやパスワードをきちんと事前に子どもたちに伝えておいて、子どもが

この授業に少し入ってみようとか、あるいは不登校の子どもや校内サポートルームを利用している子どもも、自分の教室に入れなかったとしても、サポートルームからオンラインでつないで授業を受けることができるなどの工夫も、既にそれぞれの学校でされております。

委員

ありがとうございます。

今お聞きしていてとてもいいなと思ったのが、例えばサポートルームの子どもが入るから、つなぐよというのではなくて、いつでも、入っても入らなくても配信するという体制があるのは非常にいいと思いました。

一方で、先生のITリテラシーによるのかとも思ったのと、学校ごとという、それぞれの事情はあると思うのですが、詳しい先生がいるか、先生たちが乗り気かなどということにも委ねられるかと思ったので、市内の子どもたちがそれぞれ権利として受けられるような体制で、先生方のITの研修などを充実していただけるといいかと思いました。

会長

ありがとうございます。

その他、いかがでしょうか。

オンラインについては、今非常にいいやり取りがあったと思うのですが、ぜひ②の観点から市内各校で実践を積み重ねておいていただきたいと思います。今回、学校のあり方の検討の中で、先ほどのより良い教育環境の実現の中でもオンラインの活用が出てきていたわけですが、そのような状況が出るまでオンラインを取っておくというよりは、やはり日常的にそのような実践を積み重ねておいていただきたいです。そうすることで、普段から教室に入りにくい子ども向けのノウハウがたまっていれば、いざ学校規模の課題で何かが必要となった時にもすぐに対応できます。もう一つ言うと、学びの多様化学校をご検討いただいている中で、現場の方が一番お詳しいと思うのですが、学びの多様化学校が準備できると学校に通いにくい子の課題が全部解決するかということとそういうわけではなく、通いにくさには何段階かあってということを見ると、やはりすぐにでも使えるオンラインの環境を整えておくことというのが多様な学びを素早く保証する身近な手段だと思います。そのような意味では、ぜひオンライン教育についてももしっかり実践を蓄積していただいて、使う場面が変わった時への対応力を高めていただくのが非常に大事かと思います。

小中一貫教育については、先ほど来ずっと議論が白熱していたところで、議論が白熱していること自体、関心の高さの一つかと思っております。

いい形で研究を進めていただきたいと思いますと思って聞いておりました。

論点の整理としましては、スライドの18枚目、19枚目に整理していただいている内容で進めていただければと思いますが、一方で先ほどの小規模校としての課題については小中一貫が解決するものというよりは、やはり別立てのものであるというところや、先ほど私のほうでも申し上げましたけれども、オンライン教育についてもより良い教育環境を実現するための施策についての論点の文脈だけでオンラインを考えるのではなくて、特色のある教育としての柱立てですから、学びの保証という文脈でもしっかり強調しておくということが非常に大事かと思っております。その辺も少しご留意いただきつつ、論点の整理をこの2枚の内容で進めていただければと思いますが、よろしいでしょうか。

(意見なし)

それでは最後、7番目の論点の整理として、学校と地域の関係についてというところです。事務局からのご説明をお願いいたします。

事務局

⑦第5回川西市立学校のあり方審議会スライド説明  
【学校と地域の関係について】

会長

ありがとうございます。

今、ご説明いただいた学校と地域の関係についての論点整理に関連して、ご意見ございましたらご発言いただければと思いますが、いかがでしょうか。

委員

地域との関係というところで、東谷中学校のPTAがなくなって、今、ココスクールというところで保護者と地域が一体となって子どもたちを巻き込んで活動をしています。その中で去年ぐらいから中学校の生徒たちがボランティアとして各小学校や地域の行事の活動に参画するということも始めています。

例えば、東谷地区だと牧の台、東谷小、北陵小とあるのですが、北陵小のほうでは3年前から防災の観点で学校へ泊まろうという取り組みがあります。初めは子どものお泊まり会のようなのですが、地域の方と校長先生が



中心となりながら保護者も入って、どこまで防災の観点を入れるかをいろいろ試行錯誤し、今年は大木の防災センターに地域の方、学校の先生、校長先生、小学生、中学生ボランティアとともにバスで行って、地震の体験や防災の観点を学びました。また、夕方に帰ってきて、中学生が中心になってカレーを作ってくれました。普段炊き出しの授業などで来ていただいている地域の方も入っていただき、中学生がリーダーになって何人かの小学生を見るという感じで食べました。寝る時も防災ということで、みんなで寝袋を持ってきて、マットを敷いて寝るということをしました。

どこまで防災に生かせるかというところは難しいところではあるのですが、地域の方も入っていただいたり、先ほどの小中一貫ではないのですが、中学生も楽しみながら、地域の方とつながるといのはすごくいい機会だったと思います。

他の取り組みとしては、東谷小学校は宿題道場などがあります。また、北陵小学校も寺子屋教室のようなことをやっていて、子どもたちが宿題を持ってくる部屋もありながら、地域の方が昔遊びをする部屋というのがあり、宿題に疲れたら子どもたちがそっちに行ってこま遊びやけん玉やおはじきを教えてもらえて人気です。それも始めた当初は、地域の方がそのようなものがあると聞いたけど行っていいかわからないというところで距離感がありました。ですが、去年と今年は本当にそれを楽しみで地域の方が来てくださっていて、毎年来ていると子どもたちの顔も覚えていただけたりと、本当に地域力が上がるというか、そのためだけにやっているわけではないのですが、地域のつながりの場として学校があるというのは、非常に大人にとっても子どもにとってもいいと思っています。

会長

ありがとうございます。

地域との関係の具体的なお話だったと思います。先ほどのより良い教育環境を実現するための施策の中での校区の話でも出てきたかと思うのですが、やはりコミュニティと学校の間でつくっている関係というのを上手に壊さない中で、教育環境の改善を考えていく必要があるというエピソードだったと思っています。この辺は、ぜひ学校と地域の関係のところ、学校教育の意味でもそうですし地域振興の意味でも引き受けておくべき論点かと思って聞かせていただきました。

いかがでしょう。その他、学校と地域の関係についてのご意見がございましたらと思います。よろしいでしょうか。

既に学校運営協議会も導入し、今ご発言があったように校区ごとに特色

のある形での地域と学校との連携もつくられている状況ですので、この論点整理の中でも、特に資料の③と④の話し合いと関係性というのを今後大事にした中での検討というのが必要になってくるのだらうと思います。論点整理につきましては、スライドの21でまとめていただいている内容を引き取って論点整理として進めていければと思いますが、よろしいでしょうか。

(意見なし)

ありがとうございます。

それでは、今日準備をいただいていた各論点について、改めての意見を出していただき、内容の確認という中で進めさせていただきました。今回の会議録につきましても発言要旨を事務局でまとめてもらいまして、会長である私のほうで確認承認を進めさせていただきます。本日の議事は以上となります。

次回以降につきましてですが、まず途中で少しお話しさせていただいた視察の件につきましては事務局で日程調整をいただいて進めていくこととなります。

それから、この審議会に求められているものですが、学校のあり方基本方針の素案を、今回の論点整理の内容を参考に、また起点にしていただきながら、事務局で素案をまとめていただいて作成していくという手はずを考えております。

次回、こちらの素案について事前に事務局から委員の皆さま方に送付がありますので、次回の審議会では先に素案の内容に目を通していただいて議論に臨めればと考えております。

それでは、進行につきましていったん事務局にお返ししたいと思います。本日議事のご協力ありがとうございました。

事務局

皆さま、長時間にわたりまして、どうもありがとうございました。

最後に、事務局からの連絡事項をお伝えいたします。次回の審議会につきましては、9月26日、木曜日の予定となっております。改めてご案内をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

それでは、本日の会議はこれで終了とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

[閉会 午後7時55分]